

臨床研究のお知らせ

「多軌道回転造影システム」と 冠動脈造影検査時の被ばく量に関する研究（調査）

【研究（調査）の対象】

2015年8月1日から2017年3月31日までに、当院循環器内科で冠動脈造影検査を受けられた患者さんが対象になります。診療録（カルテ）および放射線データを用いて、患者さんの年齢や性別、体格、血圧、脈拍、採血検査結果、造影に使われた造影剤の量、検査時間に照射されたX線量などを調べさせていただきます。データを収集させていただく時点でアルファベットや数字で、完全に匿名化させていただきます、さらにデータは厳重に管理させていただきます。研究の結果は、国内外の学会発表や、国内外の論文として発表させていただく予定ですが、その際、個人が特定されることはありません。この研究（調査）は倫理審査委員会で審査され承認いただいています。

【研究（調査）の対象】

冠動脈造影検査では「X線照射機器」を、右斜め方向または左斜め方向に傾けると同時に、頭側方向または尾側方向に傾けることによって、冠動脈の病変部位や狭窄程度を正確に判定するようにしています。検査を行う医師は造影する「角度」を決め、その都度、その「角度」で造影剤を注入しています。この方法に比べ、「多軌道回転造影システム」が、「造影剤使用量」および「患者のX線被ばく量」を減らすかについては、2017年3月2日の時点で調べた範囲で世界中にまだ2編の英語論文しかありません。しかもそれらは、多くの異なる疾患をもつ患者さんを対象にしていますので、日本人を対象に、予定された診断目的の冠動脈造影検査での研究（調査）結果がまだありません。そこで当院循環器内科では、この点を明らかにするために、すでに検査を受けていただいた患者さんの診療録（カルテ）および放射線データを用いて調査させていただきます。

この期間に入院された患者さんで、ご自身のデータを研究（調査）に使ってほしくない方がいらっしゃる場合は「研究不参加」とさせていただきますので、下記までご連絡ください。なお「研究不参加」を申し出られた患者さんに不利益はありませんので、ご安心ください。

問い合わせ窓口（平日 15時～17時）

国立病院機構栃木医療センター 臨床研究部 加藤 徹

電話：0286-22-5241